

## ワイヤーメッシュ柵設置の基本

### 1 みんなで勉強

近年、補助事業等を活用した大規模柵の導入が図られています。一見頑丈そうに見えるワイヤーメッシュ柵でも張り方や維持・管理を誤ると、動物から簡単に突破され、却って被害を助長してしまうこともあります。

設置者に対し事前研修をしっかりと行い、設置前の準備や正しい設置、設置後の管理を行うことが重要です。

### 2 環境整備

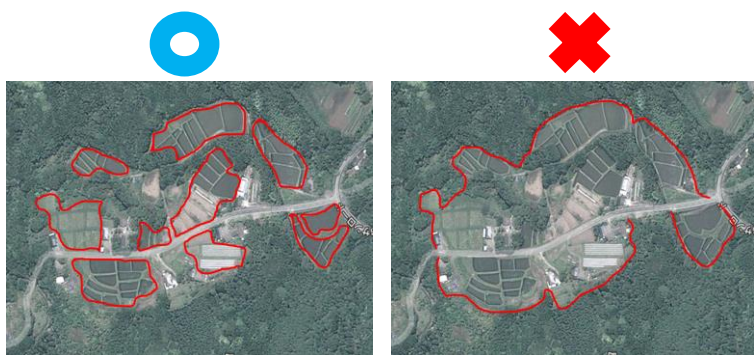
柵を張る前に無自覚のエサの除去や隠れ場所を無くすなどの取組を行い、集落や農地の「餌場」としての価値を下げ、動物を安心して近づかせない環境づくりが重要です。

### 3 正しいルート選択

#### ①柵は農地のみを一周囲う

動物は柵沿いを歩き、柵の切れ目から侵入します。よって閉鎖困難な道路や水路などは、ルートから避けておきます。また、集落全体を囲うのではなく、シンブルに農地の近くを小分けにして囲うことが基本です。

万が一侵入された場合のリスク軽減にもなります。



#### ②管理しやすいルートを選択する

柵は設置後の管理が重要です。

よって、滅多に行かない山林等への設置は避けます。山林への設置は管理しづらいだけでなく、落ち葉等で地面が柔らかく、イノシシが柵の下を掘ってくぐり抜けるリスクが高まります。

#### ③柵の内側・外側両方に管理道を設けておく

柵の点検補修や草刈作業は内外の両側が必要です。外側から管理できないと雑草が繁茂し、柵沿いまで動物が安心して近づき農地に侵入しやすくなります。

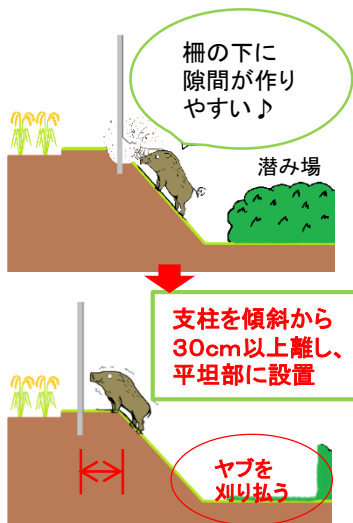
また、柵の延長が長い場合は、管理用の出入口も設置します。

### 4 正しい柵の設置

①地際や継ぎ目に隙間をつくらない  
イノシシ、シカは防護柵を跳び越えるよりも、柵の下からくぐり抜けます。しっかりと下端の鋼線を埋め込みます。また、地面の凹凸があれば先に平らにならしておきましょう。

#### ②設置場所并注意

傾斜面との境は、イノシシによる掘り起こしによって簡単に柵の下に隙間ができ、くぐられやすいので避けます。また、下り斜面と平地の境の柵では、シカの目線では柵が低く、飛び込みにより侵入されやすいがあるので、平坦な場所に設置します。



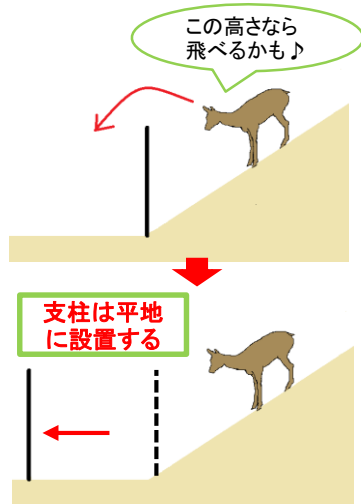
#### ③裏表や向きを確認し、丁寧に設置する

ワイヤーメッシュは、縦の線を外側（山林側）、横の線を内側（農地側）に向けて設置します。

メッシュが外側、支柱が内側になるように設置します。

支柱の立込とメッシュの設置は、同時進行で行います（支柱だけ先に立てない）。

支柱とメッシュの縦の鋼線ができるだけ重なるように丁寧に設置します。



縦の線が外側！



設置後は定期的に柵の点検・管理を実施しましょう！

被害対策に関する問合せ  
西臼杵支庁及び各農林振興局  
各市町村・各農協・各森林組合等

# ☆鳥獣被害対策地域特命チームだより☆

## 東臼杵北部地域

令和元年度までモデル集落として鳥獣被害防止対策を進めてきた延岡市北方町荒谷集落でのメッシュ柵開口の省力化事例を紹介いたします。

平成30年10月に鳥獣対策ビジョンと柵管理台帳が作成され、定期的に集落住民による柵の点検、記録及び柵の保全が行われています。

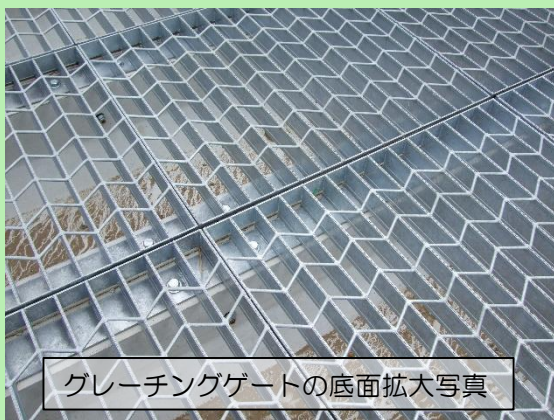
メッシュ柵には必要に応じ出入口が設置されていますが、車道では車が通行するため柵の設置が困難であり、地域の課題となっていました。

その課題解決のため、令和元年度に地元住民の要望により、補助事業を活用しグレーチングゲートを導入しました。導入前に集落住民と県内での事例調査を行い、どの程度の工事が必要か確認し、集落住民による自己施工で取組みました。

グレーチングゲートは、偶蹄目の動物（シカやイノシシ）には有効（タヌキ等の小動物を除く）であり、メッシュ柵内の農地は、水稲作が主であるため獣害被害を受けることなく作付できており、住民から高い評価をいただいています。

柵の開閉作業がなくなりが楽になったため、日頃の点検も効

率的に行われ「鳥獣被害から守れる集落」づくり役に立っています。



グレーチングゲートの底面拡大写真



グレーチングゲート

## 西諸県地域

西諸県地域では、基盤整備と一体的な鳥獣防護柵等の整備がえびの市の畝倉地区で、昨年度完了し、今後、小林市、えびの市、高原町の4地区で整備が計画されています。

基盤整備事業で整備する鳥獣防護柵等は、鳥獣交付金と異なる、生産者負担が発生しますが、施工費まで補助対象となる他、イノシシやシカの侵入を防ぐグレーチングの設置とイノシシの掘り起こし防止や草刈り作業低減のための「張りコンクリート施工」まで補助対象となるなどメリットが多いため、基盤整備を計画している地区での、鳥獣防護柵等の整備要望が増えています。

しかしながら、県内でも、えびの市の畝倉地区でしか整備事例がなく、各市町の鳥獣害担当者も鳥獣交付金と基盤整備事業を活用して鳥獣防護柵等を整備する際の事業要件の違い等を十分理解できていないため、7月30日に現地研修会を開催しました。

当日は、県から事業の概要等を説明した後、畝倉地区の上原理事長から、これまでの経緯や整備のポイント等を説明いただきました。

畝倉地区では、基盤整備と一体的に鳥獣防護柵等の整備を進

めたため、周囲全体を覆うのに複数年を要しましたが、完成後は、鳥獣の侵入はなく、被害も全く発生していないとうれしそうに話をされる上原理事長が印象的でした。

その後、各市町の鳥獣害担当者、整備された鳥獣防護柵等の種類や強度等を確認し、今後の整備イメージをつかめた様子でした。

9月24日には、現在、基盤整備中で、鳥獣防護柵等の整備を要望している高原町祓川地区について、関係機関の検討会が開催され、早速、現地研修会の成果が活かされました。

地区によって、被害を及ぼす鳥獣が異なるため、改良等は必要になりますが、他地区でも活用できるモデルづくりを目指す予定です。



現地研修会の様子